

第2回総合教育会議
資料
令和3年11月18日

「GIGAスクール構想」に基づく西宮市の教育の情報化
の現況について

教育委員会

「GIGAスクール構想」に基づく 西宮市の教育の情報化の現況について

目次

1. 環境整備状況
2. ICT環境利用状況について
 - ① 1人1台稼働状況
 - ② 1人1台端末利用シーン

環境整備状況

- ハード面について
 - ネットワーク環境状況
令和3年4月～9月 校内インターネット接続環境改善作業
- ソフト面について
 - GIGAスクール・スタートパッケージ制定
令和2年12月 速報版公表
令和3年1月～2月 素案公表・意見募集
令和3年3月 正式版公表
 - 各種研修実施
 - 令和2年10月～ 教育系システム更新に伴う研修開始
(オンラインドリル・授業支援システム利用方法を中心に)
 - 令和3年8月～ 夏季休業期間中の集合研修・研修動画提供
(コミュニケーションツール利用方法を中心に)
 - 令和3年10月～ 指導主事による訪問研修開始

ICT環境利用状況

- 1人1台端末 利用実績
 - 令和3年4月～8月
起動回数合計:946,128回(校内のみ)
 - 令和3年9月・10月
起動回数合計: 645,371回(校内:570,238回 校外:75,133回)
 - ※令和3年度5月1日現在児童生徒数:37,507人
 - ※端末が、ネットワークに未接続または教育系ネットワークに接続していない場合の起動は対象外
- 1人1台端末 活用シーン
 - 西宮市のGIGAスクール構想「～教育の情報化を目指して～」特設サイト内に事例集公開
(<http://kusunoki.nishi.or.jp/School/joho/>)
 - <通常時>
 - ・校内利用
 - 近隣校との外国語交流会 内容詳細:別添資料 2
 - PowerPointを用いた協働学習 内容詳細:別添資料 3
 - Teamsを使った双方向の生徒総会 内容詳細:別添資料 4
 - ・家庭利用
 - 緊急事態宣言下でのリコーダー演奏(演奏練習を宿題としていた) 内容詳細:別添資料 5
 - 6年生 学年総会「ブックトーク」(資料作成) 内容詳細:別添資料 6

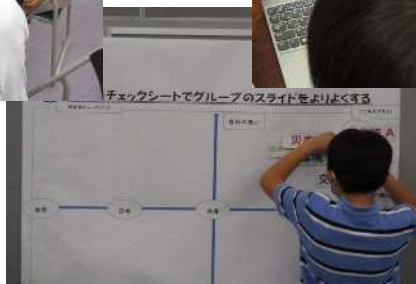
活用の様子

- 近隣校との外国語交流会(2小学校が相互接続)



活用の様子

- PowerPointを用いた協働学習(小学校)



活用の様子

- Teamsを使った双方向の生徒総会(中学校)



活用の様子

- 「まちたんけん」まとめ(小学校)



ICT環境利用状況

• 1人1台端末 活用シーン

<非常時>

• 出席停止児童生徒に対する対応

個別対応……Web会議システムを用いた教員と児童生徒とのコミュニケーション
課題(オンラインドリル等)提示

• 学級閉鎖時の対応

春風小学校 事例 内容詳細:別添資料 7

活用の様子

• 学級閉鎖時の授業の様子



別添資料 1

市内学校へ情報提供を行った事例一覧

NO	校種	タイトル	概要	
1	R2	小学校	Skypeを使った遠隔地交流	Skypeの活用事例。台湾の小学校との遠隔地交流を行った時の内容の様子を紹介している。
2	R2	小学校	タブレット型AIドリル教材を利用した学習	デジタルドリルの活用事例。デジタルドリルの家庭や放課後キッズでの活用方法と子供の様子を紹介している。
3	R2	小学校	Teamsを使ったオンライン学活とプログラミング教育	Teamsの活用事例。オンライン学活の試行状況やオンライン授業に向けての研修の様子を紹介している。
4	R2	小学校	Teamsを使ったオンライン学活	Teamsの活用事例。学級閉鎖になった学級のオンライン学活について、準備や実際の様子を紹介している。
5	R2	小学校	プログラミングソフト『Scratch』を活用した作曲の学習	ソフトを使った学習事例。音楽の授業で、プログラミングソフト「Scratch」を使って作曲をした様子と教師、子どもの感想を紹介している。
6	R2	小学校	全学年オンライン学活の実施に向けて～放課後15分のチャレンジ～	Teamsの活用事例。臨時休校への備えとして、全学年でオンライン学活の試行を行った時の準備や手順、様子を紹介している。
7	R2	小学校	eライブラリ「自由学習」の効果的な活用に向けて	デジタルドリルの活用事例。eライブラリの導入に伴って、その使用方法について子どもたちに説明している様子を紹介している。
8	R2	小学校	Teamsを利用したオンラインでの修学旅行説明会	Teamsの活用事例。対面とオンラインの同時に行った修学旅行の説明会について、その手順、成果と課題を紹介している。
9	R2	中学校	ICT活用研修は30分以内！	ICT活用の推進事例。プロジェクトチームの設置やその取り組み、会議後30分を使った研修について紹介している。
10	R2	小学校	一人一台タブレットの授業づくりに向けて	ICT活用の推進事例。ICT活用に向けての推進体制とその取り組み内容を資料を含めて紹介している。
11	R2	中学校	特別支援学級でタブレット活用中！	タブレットの活用事例。特別支援学級でのタブレット操作やデジタルドリルでの学習の様子を紹介している。
12	R2	教育委員会	すべての授業者に向けた「タブレット導入研修」がスタート！	ICT活用の推進事例。すべての授業者が基本的な操作ができるよう指導主事による各校への派遣研修について、その内容と様子を紹介している。
13	R2	小学校	ICT機器を活用したこれからの授業研究会	ICT機器の活用事例。密な状態を避けるため、従来の教室内で参観するという授業研究から、リモート会場で参観する方法を紹介している。
14	R2	中学校	新たな授業づくりへの挑戦～臨時休校・学級閉鎖を見据えて～	ICT活用の推進事例。デジタルドリル活用やTeams利用についての研修の内容と様子を紹介している。
15	R2	教育委員会	思考ツールを活用し、「思考」を深める授業づくり	授業支援ソフトの活用事例。授業支援ソフトに入っている思考ツールについて、その活用例を紹介している。
16	R2	中学校	Teamsを使った新たな学校行事の進め方	Teamsの活用事例。講演会と学校間交流をメニューとした学校行事について、その様子と成果、課題を紹介している。
17	R2	中学校	オンラインで気持ちをつなぐ	Teamsの活用事例。病气入院後、自宅療養している生徒とクラスを結んだ学活の様子を紹介している。
18	R2	中学校	地域との会議にWeb会議利用～Zoomを用いた学校運営協議会の開催～	ICTを活用した校務支援事例。緊急事態宣言下中のWeb会議システムを使った学校運営協議会について、その成果と課題を紹介している。
19	R2	中学校	特別支援学級での活用	タブレットの活用事例。特別支援学級での授業での活用、デジタルドリルの持ち帰り学習などを紹介している。
20	R2	中学校	できることからのICT活用	タブレットの活用事例。授業支援ソフトやエクセル、パワーポイントを使用した授業実践例を紹介している。
21	R3	小学校	緊急事態宣言下でのリコーダー演奏	タブレットの活用事例。端末に伴奏の入った動画を保存し、その伴奏に併せたリコーダー演奏を家庭で録画して提出する方法を紹介している。
22	R3	中学校	研究全体会でICT活用の方向を検討	ICT活用の推進事例。タブレットを使った授業についての校内研究会の方法と様子、課題について紹介している。
23	R3	小学校	Teamsを使った実験結果の共有	タブレットの活用事例。授業支援ソフトやTeamsの活用した理科の授業実践について紹介している。
24	R3	小学校	学習者用デジタル教科書を使った授業展開	タブレットの活用事例。学習者用デジタル教科書を用いたいくつかの授業について、その利点や課題を紹介している。
25	R3	中学校	Teamsを使った双方向の生徒総会	Teamsの活用事例。各クラスをつないだTeamsによる生徒総会について、その方法と様子について紹介している。
26	R3	小学校	近隣校との外国語交流会	Teamsの活用事例。2つの小学校がTeamsでつながり、外国語交流会を行った。その内容と今後の展望を紹介している。
27	R3	中学校(他県)	生徒ICTサポーターの育成	ICT活用の推進事例。教員が教えるだけでなく、生徒自身が教え合える風土をつくる「生徒ICTサポーター」を紹介している。(他県の取り組み)
28	R3	中学校	新任研修会でICT活用	ICT機器の活用事例。教室での密状態を避けるため、別室での模範授業参観を行った新任研修会について、その様子と成果、課題を紹介している。
29	R3	小学校	Microsoft Teamsによる終業式	Teamsの活用事例。一同に集うのではなく、各クラスで終業式に参加した。その方法や様子を紹介している。
30	R3	小学校	TeamsによるPowerPointを用いた協働学習	Teamsの活用事例。Teamsの画面共有機能を用いて行った総合的な学習の実践事例。その方法や様子、授業者の感想を紹介している。
31	R3	小学校	オンライン学活	Teamsの活用事例。Teamsを使って家庭と学校でのオンライン学活の試行。2回目の実施のため、より精度の高い実践内容を紹介している。
32	R3	中学校	図書委員の集い・中学生の読書会	Teamsの活用事例。これまで一同に集まっていた市内行事をTeamsを使って学校間で開催した。その方法と様子を紹介している。
33	R3	中学校	学級閉鎖におけるTeamsの活用	ICT活用の推進事例。学級閉鎖や登校できない児童生徒へ向けてのオンライン授業実践。その準備物や方法について紹介している。
34	R3	小学校	6年生 学年総合「ブックトーク」	ICT機器の活用事例。パワーポイントで作成したスライドを基にビデオカメラや配信システムなどを使って「ブックトーク」を行った。その方法と様子などを紹介している。
35	R3	小学校	学級閉鎖時の対応までの流れ	ICT活用の推進事例。長期にわたる学級閉鎖時における対応の事例。家庭と学校におけるオンライン授業配信までの流れや準備などを紹介している。
36	R3	小学校	学級閉鎖時の対応までの流れ②	ICT活用の推進事例。事例35の続編。オンライン授業配信(4日間)の時間割や学習の内容、児童、保護者、担任の感想を紹介している。

近隣校との外国語交流会



A小学校・B小学校

実践事例の紹介

A小学校とB小学校で、外国語交流会が行われた。各校の行事や校区にある施設を英語で紹介した。校内で交流をするよりも、近隣の学校へ英語で紹介することで、意欲的に取り組む姿が見られた。

【A小学校側】



Teams で交流

両校で事前に学校行事と校区の施設を紹介する英文を作成。

司会は、両校の教員が行い、はじめのあいさつ・おわりのあいさつは児童が実施した。

前半はA小学校が、後半はB小学校が発表を行い、お互いの良いところを最後に発表しよう場面も設けていた。

両校共に、英語のスピーチをするだけでなく、写真を印刷してどんな施設かを見せることで、どうすれば相手校に伝わるか工夫をして発表を考えていた。

【B小学校側】



【今後の展望】

- ①今回は発表を聞くだけにとどまっていたが、発表に対しての質問をしたり、「and you?」と聞き返したりすることで、双方向の交流ができる。
- ②グループを細分化して、1対1の交流をすることや、ブレイクアウトルームを使い、他校の児童と共同で、プレゼンテーションを作成することができる。

Teams による PowerPoint を用いた協働学習



小学校

実践事例の紹介

総合的な学習の時間での取組。地域の成り立ちや住んでいる人々の思いを調べ、現在の課題を分析して、未来の地域について考えたことを班ごとに発表した。探究的活動から発表まで ICT を積極的に活用しながら、情報活用能力の育成を考えた単元構成となった。

■授業の様子



地域の課題に焦点化して考えるために、「思考ツール」を使って取組を自己評価する場面を設けた。

2回の自己評価を経て、それぞれの班の課題を再検討することで、子供たち目線の地域の課題に焦点が移っていき、発表内容がより具体的になっていった。

ICT 端末を自宅に持ち帰って地域の写真を撮影したり、家の人から聞いた話を文章にまとめたりして、学習を進める児童もいた。

班のメンバーそれぞれが持ち寄った情報や考えたことを交流して、お互いにアドバイスをしながら班の課題について学習し、考えを深めていった。



Teams を活用しスライド作成を分担して行った。班のメンバーが作成している様子を確認しながら自分のスライドを作成したり、時には声をかけて内容を確認したりする姿が見られた。

写真は個別学習に見えるが、Teams に変更点が反映され、協働的に学習を進めていた。



【授業者の感想】

- ・ Microsoft Teams を活用することで、班ごとの発表内容について、メンバーが共有しながら全員で学習を進めることができた。
- ・ 協働学習では目標を共有することが大切で、今回のような「思考ツール」が役に立つと考えた。

思考ツール：子どもたちの考えたことを見える化し考えることを補助する。比較する「ベン図」や分類する「Yチャート」、理由づける「クラゲチャート」などがある。

Teams を使った双方向の生徒総会

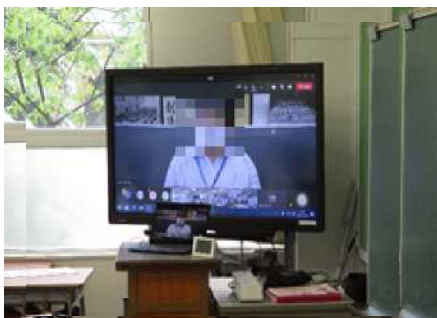


中学校

実践事例の紹介

7月2日（金）に本校で、Teams を使い双方向の生徒総会が行われました。新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン通信を使用し、質問や承認も行いました。

■生徒総会の様子



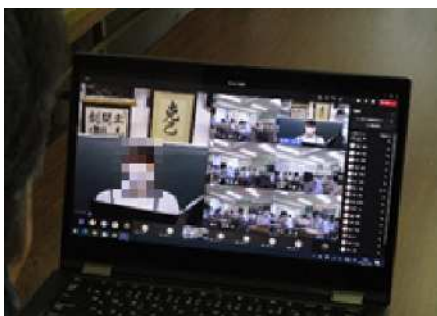
(教室)



(生徒総会司会)



(提案者)



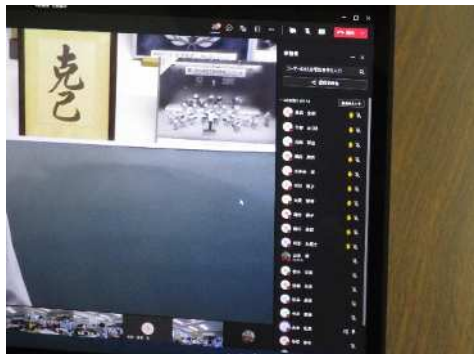
(サポート用 PC)

PC 3 台 (司会・提案者・サポート) を使い、教室と会議室を Teams でつないで生徒総会を実施しました。

事前に、教員のアカウントでチームを作成し、チーム会議の設定をしていました。また、教室と会議室の接続がうまくいっているかどうかを確認するために、サポート用の PC を教員が管理してオペレーションをした。何かトラブルが起こった場合は、待機している教員が、教室へサポートする場面も見られました。



(クラス毎の承認場面)



(挙手マークで承認を確認)

承認の際は、クラス毎に挙手にて確認をして、担任が Teams の挙手マークを送り、全クラスが承認をしているかを確認。挙手マークがつかないところには、問いかけをして質問を繰り返す場面も見られました。

【生徒会長・副会長の感想】

- ・ Teams で話し始めるタイミングを掴むのは少し難しかったが、無事に開催できてよかった。
- ・ 体育館に集まって生徒総会をすると一体感は生まれるが、Teams で生徒総会をすることで、一人一人の意見の違いが出やすいように感じた。

緊急事態宣言下でのリコーダー演奏



小学校

実践事例の紹介

本校では、2学期から5年生は卒業式の入場曲、6年生は音楽参観に向けてリコーダーの練習に取り組んでいました。しかし、緊急事態宣言が発出されたことで音楽科の授業でのリコーダー演奏が制限され練習できなくなりました。リコーダーの練習を宿題としても成果が確認できない。何より子どもの演奏する姿を見たいので以下のような流れで演奏をしました。

■演奏までの流れ

- (1) 伴奏をダウンロードし、OneDriveに保存して持ち帰ります。
伴奏のダウンロードについては、「児童の学習のためなら問題ない」と著作権協会に確認をとりました。
- (2) 児童は、伴奏を再生し、それに合わせてリコーダーを演奏し録画します。
「伴奏の再生」と「リコーダーの演奏」を同時にすることが難しくリコーダーの演奏のみの児童もいました。
- (3) 録画したファイルを学校指定のフォルダ(ジャストスマイル先生フォルダや児童用フォルダ)に保存します。
- (4) 音楽科教師が提出されたファイルを再生し、レベルアップのポイントを伝えていきます。



■授業者の先生より

想定していた以上に多くの児童が、しっかり取り組むことができました。教師が説明した方法よりも、簡単に操作できる方法を見つけた児童が数人いました。見つけた方法を学級の友だちに広め共有することで学び合うこともできました。

また、家庭での演奏のため学校で見る表情と違う一面が見られました。

■児童の感想(アンケート結果より)

動画を撮影した2/3の児童は、「コロナ禍だから今回の形もOK」「好きな時間にできる」「友だちの前で演奏するより緊張しない」「何度も繰り返し練習し、納得のできるものが提出できる」

残り1/3の生徒は、「操作が難しい」「動画を他人に見られるのは恥ずかしい」と否定的な意見もありました。

6年生 学年総合「ブックトーク」



小学校

実践事例の紹介

本校では「放送しま～す」を用い、6年生が「ブックトーク」を行った。国語科の「本と私」の学習で、ブックトークをするにあたり一人一人がパワーポイントでスライドショーを作成した。今回は、休み時間に特別練習をこなした各クラスの代表が、少人数教室で、自分で作成したスライドを背にカメラの前でブックトークを行い、それを6年生の各教室へ向けて配信した。

■少人数教室の様子

リモコンでパワーポイントを遠隔操作しながら進める。



ビデオカメラは配信用PCと繋げる。このカメラの映像が教室に配信される。

このPCは配信用。ビデオカメラの映像を確認できる。

パワーポイントのデータは児童ドライブと念のために先生ドライブに保存した。児童は自分の発表後、自分のデータを閉じて、次の人のデータを開いてから戻る。スライドは3～6枚程度。一人3分程度で、スムーズに交代しながら進んだ。



実物を見せたり、身振り手振りをつけて話したり、3択クイズを出したりして、伝え方に工夫が見られた。また、パワーポイントのスライドにも趣向が凝らされていた。



■教室の様子



各教室では、ワークシートを記入したり、うなずいたりして真剣に友達のブックトークに聞き入っていた。

■成果と課題

<成果>短歌の掲示物作成に始まり、今回のブックトークを経て、次回の修学旅行の報告会と取組を続けており、GIGA 端末は発表のツールの一つとして児童に定着しつつある。児童からは、こんなこともしてみたい、とアイデアがどんどん出てきている。児童の意欲と学習の広がりが感じられる。「放送しま～す」を用いているので、全教室に配信することが可能である。

<課題>配信元と配信先の場所が近いと、音声がかぶりやすくなる可能性がある。

学習後、「発表テーマ」「紹介した本の書名」等について児童に Microsoft Forms でアンケートを実施し、その情報をもとに読書環境の整備を進めていくことを予定している。



学級閉鎖時の対応までの流れ

小学校

実践事例の紹介

本校では新型コロナウイルス感染症に伴う、学級閉鎖があった。学級閉鎖の決定時から、オンライン授業配信までの日程や、健康観察の方法を工夫した。オンライン授業の配信をする中で、課題も出てきたが、学級の様子に合わせて対応した。

■オンライン授業配信までの流れ

9月26日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・学級閉鎖(1週間)が決定。 ・ミマモルメにて、オンライン学習の方法を連絡 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【内容】</p> <p>27日(月)の9:00にeライブラリで担任よりメッセージを送信するので、ログインをしてください。</p> </div>
9月27日(月)	<p>9:00 eライブラリでメッセージを送信。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【内容】</p> <p>10:30に28日(火)の予定を送ります。このメッセージを見た人は「わかりました。」と確認のメッセージを送りましょう。</p> </div> <p>→返信がない家庭へ連絡。接続の方法を説明。</p> <p>10:30 eライブラリにて28日(火)のオンライン授業時間割を連絡。</p>
9月28日(火)～	9:00～12:00頃までオンライン授業配信

■オンライン授業配信の時間割(29日の実践事例)

9:00～	朝の会	
9:40～	算数	一斉授業の後、課題を出し、各自取り組んだ。
10:25～11:25	質問タイム	3人の児童から個別に質問があった。
11:30～	国語	まず、算数の答え合わせをした。(5分) 「ごんぎつね」 第4場面 一斉授業
12:15～	家で課題	漢字ドリル・運動会リズム練習×3 タイピング練習 理科の課題(月の動きについて)

※30日(木)は国語・算数を午前中に行い、体育(リレーの説明等)を午後から行う予定。

■その他

- ・双方向でやりとりをするために、全員のマイクをONにして授業を進めた。
- ・大きめに板書した文字を広角カメラにて配信した。
- ・学校に教科書を置いており、家に国語の教科書がない児童のために、デジタル教科書を画面共有した。
- ・先生が全体に問いかけ、児童が手を挙げて発表した。
- ・体調不良者に配慮し、健康観察はeライブラリにて体温等を提出させた。

第2回総合教育会議
資料
令和3年11月18日

こころん・サーモ実施状況について

教育委員会

こころん・サーモ実施状況について

目次

1. こころん・サーモについて
 - ① 概要・開発の経緯
 - ② 実施方法・調査内容
2. 実施状況について
 - ① 現在の状況
 - ② 学校現場からの反応
 - ③ 今後の予定

こころん・サーモについて

・概要

武庫川女子大と西宮市教育委員会が共同開発している、タブレットで行う児童生徒の心理状態チェックシステムである。

・システム特徴

1. アンケートへの入力内容が個人IDと紐づいており、小学校から中学校の卒業まで一人一人の子どもの変化を追跡することができる。
2. 西宮市のイントラサーバーを利用するため、個人情報が入りに流出しない。
3. 教師は子どもの心の変化を、現状、短期、長期に渡って把握することができる。また、チャートで集約された個々の情報から、一定の集団(学級や学年)の状況を知ることができ、予防的な手立てを考えることも可能となる。

こころん・サーモについて

・開発の経緯

平成27年 武庫川女子大学との連携による研究開始
(文部科学省「子どもみんなプロジェクト」)

平成28年～ 西宮浜小学校、西宮浜中学校を始めとして、数校に協力してもらいアンケートの尺度の有効性を検証

令和元年 「こころん・サーモ」尺度の完成

令和2年 タブレットを用いたアンケート実施のための実装準備

基準値の更なる妥当性を求めて下記の数校に紙媒体の調査で実施

北地区 名塩小学校、東山台小学校、北六甲台小学校、山口中学校

中地区 春風小学校、今津小学校、深津中学校

南地区 西宮浜義務教育学校

令和3年 タブレットを用いたアンケート実施開始

実施学年:小学5年～中学3年

市内統一期間(年2回)を設定し、その他の期間は学校、学級で活用

こころん・サーモについて

- 実施方法

児童生徒用タブレットを用いて、4択のアンケートを回答する。
校内で実施する。

- 調査内容

児童生徒が34個の質問項目に回答することで、心理状態を12の指標にまとめてレーダーチャートで表示する。
(12の指標)

ソーシャルサポート・充足的達成動機・競争的達成動機・運動の有能感・身体的強靱性・心理的強靱性・問題焦点対処・情動焦点対処・実存感・自尊心・集団生活スキル・理由づけ傾向

こころん・サーモについて

- ログイン画面

こころんサーモに入力しましょう

学年	5年
組	1組
出席番号	1番
パスワード	<input type="password"/>

はじめよう

こころん・サーモについて

・実施前確認画面



こころん・サーモについて

・アンケート画面



こころん・サーモについて

• アンケート画面(最終)



こころん・サーモについて

• 回答終了画面

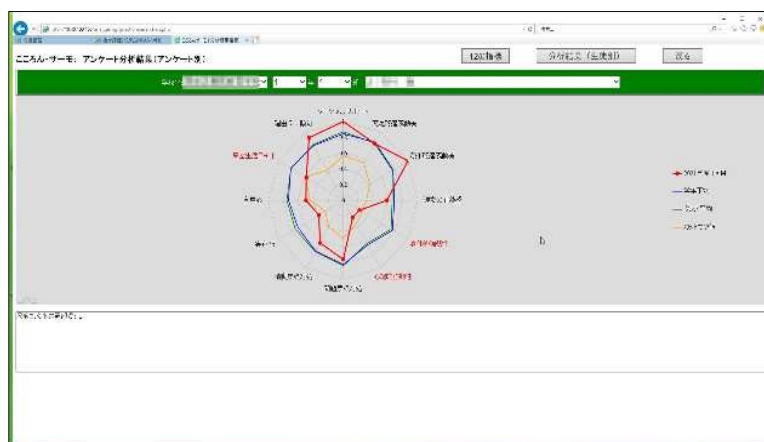


実施風景



こころん・サーモについて

- 回答閲覧画面(教員のみ閲覧可能)



実施風景



アンケート実施後、職員室ですぐ確認可能

配備されている校務用PCで、
結果確認ができる

実施状況・今後の予定について

- 現在の状況
 - 令和3年6月 西宮浜義務教育学校
 - 7月 鳴尾北小学校、平木小学校
 - ※全校一斉実施前のプレ実施として、3校で行う。
 - 9月～ タブレットを用いたアンケートを市内全校で開始
- 学校現場からの反応
 - ・因子分析を行った確かなアンケート尺度であり、信頼性が高い。
 - ・エビデンスに基づいた児童生徒理解が可能となった。
 - ・即座に結果がレーダーチャートで表示されるため、タイムリーな児童生徒理解につながった。
(他のアンケートでは、結果に2週間程度かかることがある。)
 - ・無償で実施することができたため、何度も実施することができた。
(他のアンケートでは、検査用紙代や診断料がかかることがある。)
- 今後の予定
 - 結果を効果的に指導に生かす研修の充実

第2回総合教育会議
資料
令和3年11月18日

西宮市立高等学校スクール・ミッションについて

教育委員会

西宮市立高等学校スクール・ミッション策定にあたり

○基本理念「夢はぐくむ教育のまち西宮」

西宮市は昭和 37 年に「安全都市宣言」、昭和 38 年に「文教住宅都市宣言」、昭和 58 年「平和非核都市宣言」、平成 15 年に「環境学習都市宣言」を行い、文教諸施設の整備拡充や安全で安心して暮らすことのできる地域社会を進め、環境学習を軸とした 21 世紀の持続可能なまちづくりを進めています。

また、平成 8 年にこれからの時代に生きる子供たちに何が最も大切か、私たち大人とその社会が果たすべき教育的責任は何かを考察し、これからの基本理念として、「夢はぐくむ教育のまち西宮」を教育の柱にかかげました。

夢を失わない限り、道は必ず開かれるという考え方のもとに、子供たちには、震災を心の憂いとせず、困難をバネとして自らの人生をたくましく切り拓き、社会の有為な形成者として育てほしいという願いが込められており、今日では、文教住宅都市西宮における、生涯学習のまちづくりをイメージした基本目標と位置付けています。

○これからの教育に求められていること

現在、子供たちを取り巻く社会のあり方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど、劇的にかつ加速度を増して変化し、子供たちが生きるこれからの未来は、複雑で予測困難な状況になっています。そのような時代にあって、持続可能な開発目標（SDGs）などを踏まえて、自然環境やイノベーションなど、地域や地球規模についてのさまざまな課題を、未来を担う子供たち一人一人が自らの課題と捉え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育成することが、教育に今求められています。

また、これからの高等学校教育においては、地元の自治体や産業界、社会教育機関、地域の NPO 法人等の多様な主体との連携・協働体制を構築するとともに、他の高等学校や高等教育機関等の関係機関との連携・協働を図ることで、各高等学校を取り巻く課題や状況に対応し、20 年後、30 年後の社会像を見据えた特色・魅力ある教育を行うことが求められています。

○西宮市立高等学校スクール・ミッションの再定義

西宮市立高等学校スクール・ミッションは、西宮市立高等学校が、新しい時代の教育のあり方を内外に示し、今後 20 年後、30 年後の社会像を見据えた特色・魅力ある教育を、各校が推進する方針として、西宮市立高等学校としての存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき高等学校像を再定義するものです。現在の高等学校教育を取り巻く状況や課題を踏まえて、西宮市立高等学校の発展と改革の経過や、西宮市の教育理念、西宮市教育大綱に掲げられた理念を踏まえて作成しています。

西宮市立高等学校スクール・ミッション（原案）**高校の存在意義****現代的な諸課題に対応するために必要な資質・能力の育成**

豊かな自然と伝統に恵まれた文教住宅都市・西宮では「夢はぐくむ教育のまち西宮」の理念の下、今を生き、未来の主演となる生徒が、確かな学力、豊かな心、健やかな体からなる「生きる力」を育み、それぞれの夢の実現を目指している。

その過程において、自分の良さや可能性を認識し、様々な社会の激しい変化を前向きに受け止め、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会を創りあげていく資質・能力が必要となる。

西宮市立高等学校では、自らの興味・関心に基づいた探究活動や地域・大学と連携し実践される特色ある教育活動、生徒会や部活動等の自治的活動を通して、仲間たちと考えを深め解決策を導き出そうとするなど、困難へもたくましく挑戦し続ける教育活動により、現代的な諸課題に対応するために必要な資質・能力の育成に向けた学びを実現する。

期待される社会的役割**地域や社会の発展への寄与**

高等学校教育においては、生徒が自己理解を深め、自己の生き方と地域・社会との関わりについて深く考えることを通じて、キャリア発達を促すことが求められている。そのためには、人間らしく豊かな人生を切り拓いていくために必要な力を身につけ、社会の形成者として必要な資質・能力が育まれるように、生徒の学びを構成していく必要がある。

西宮市立高等学校では、地域・大学と連携した活動、自然や伝統文化に親しむ活動、海外の多様な文化的背景を理解する活動や地域貢献活動に取り組むことにより、社会の中で自立する力の育成を目指す。

また、高等学校教育全般を通じて、主権者教育やキャリア教育を進め、生徒に自らの役割の価値や地域・社会との関係性を見出させ、個々の能力や適性、興味・関心等に応じた学びを実現することで、将来のキャリアを展望する基盤の形成を促し、地域や社会の発展に寄与する。

目指すべき高等学校像**社会で活躍するリーダー及びイノベーターとしての素養を身につけた人材の育成**

複雑かつ予測困難となる社会では、自分とは異なる多様な文化や歴史、価値観を持つ人々と共存・協力し、持続可能な発展を遂げていかなければならない。

そのような中で、変化に柔軟に対応しながら、自他の幸福を追求し、新たな社会を創造し先導する力及び生涯にわたって学び続け、その学びを人生に生かしつつ、地域・社会に貢献しようとする力の育成が求められている。

西宮市立高等学校では、専門学科、普通科及び普通科コース・類型の各々において、地域・社会に関わる課題を見出し、主体的に考え、多様な他者と協働して解決しようとする学びに取り組んでいる。そのような学びを通して、国内外の社会問題の発見・解決に向けて対応を考えるとともに、グローバルに活躍するリーダーとしての素養や、サイエンスやテクノロジーの分野等において飛躍知を発見するイノベーターとしての素養を身につけた人材の育成を目指す。



〈西宮市立高等学校の教育目標と沿革〉

○西宮市立西宮高等学校

・教育目標

- 1) 真理を尊び、正義と平和を愛する青年を育成する
- 2) 個人の尊厳を重んじ、個性豊かな人間を育成する
- 3) 地域との連携のもとに、公民的自覚を深め、民主主義社会の有能な形成者を育成する

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知徳体をバランスよく育てることをめざします。

・沿革

明治 41 年尋常小学校卒業後、西宮町内唯一の女子教育機関として、浜久保町（現久保町）に私立西宮女子技芸学校が創設されました。設立の目的は、尋常小学校卒業後の女子に修身、国語、算術、裁縫、造花、刺繍、家事、作法などの技芸と教養を授けることにありました。

大正 9 年に町立西宮高等女学校の設立が認可され、大正 14 年に市立西宮高等女学校に改称しました。当時の西宮高等女学校の教育方針・学校行事から、創立以来「智」「徳」「体」の調和のとれた人格形成をめざす全人教育を校是に掲げ、生徒の個性を尊重することを主眼に、自由な特色のある教育が実施されてきました。昭和 23 年の学制改革により、西宮市立西宮高等学校となり、その後、西宮市建石高等学校に改称しました。昭和 25 年に西宮市立西宮高等学校に改称し、昭和 45 年に建石校舎から高座校舎に移転し現在に至ります。

明治 41 年（1908 年）	私立西宮女子技芸学校が創設（開校時在校生徒数 29 名）
大正 7 年（1918 年）	町立西宮女子技芸学校の設立が認可
大正 9 年（1920 年）	町立西宮高等女学校の設立が認可（定員 480 名）
大正 14 年（1920 年）	市立西宮高等女学校の設立に改称（入学生 121 名）
昭和 23 年（1948 年）	学制改革により市立西宮高等学校となる（中学校第 3 学年を含め 19 学級） 西宮市建石高等学校に改称（10 月）
昭和 24 年（1949 年）	商業科を設置 第 31 回全国高等学校野球選手権大会の開会式に、生徒が式典誘導係として参加する
昭和 25 年（1950 年）	西宮市立西宮高等学校に改称
昭和 26 年（1951 年）	定時制課程（夜間部）を設置
昭和 41 年（1966 年）	英語コースを設置
昭和 45 年（1970 年）	高座町の新校舎に移転。英語コースの募集を停止
昭和 51 年（1976 年）	商業科の募集を停止
昭和 61 年（1986 年）	理数コースを設置
平成 15 年（2003 年）	理数コースをグローバル・サイエンスコースに改編・改称
平成 20 年（2008 年）	普通科に人間探究類型を設置（特色選抜制度が導入される）

○西宮市立西宮東高等学校

・教育目標

- ・心身ともに健康で品位ある人間を育成する
苦難に耐え抜く強健なからだ、明朗かつ達で情味ゆたかな心を持った人間
- ・自立的な人間を育成する
真理を尊び、正義を重んじ、勤労を愛し、自立的で創造的な、うるおいのある人間
- ・社会的な人間を育成する
自他を敬愛し、責任を重んじ、進んで世の人々の幸福のために貢献する人間

・沿革

昭和 34 年に米軍の接収解除により、浜甲子園にあった広大なキャンプ地が返還されました。昭和 35 年に、戦後のベビーブーム対策として、市営住宅 5 千戸が計画されたこととともない、市教育委員会が小中学校の新設を計画し、さらに普通高校を設立することとなりました。そして、昭和 38 年、西宮市立西宮東高等学校が開校しました。

創設にあたり、地元の熱意に励まされ、初代の藤井校長は、「西宮東高等学校を生徒たちが誇りをもつ学校、生徒たちが愛する学校に育てあげたいと念願している。生徒たちが誇りをもつ学校に育てるには、自発的で自律的な学習態度と、きびしい躰のもと気品ある言動を身につけた生徒たちでみちみちた学校にすることが大切であろう。真剣で、積極的なクラブ活動、精選された学校行事が緑の多い、美しく整備された校庭で展開されるならば、楽しい学校となり、生徒たちの愛する学校となるであろう。」との教育方針を述べておられます。

昭和 37 年（1962 年）	西宮市立西宮東高等学校が設置決定
昭和 38 年（1963 年）	第 1 回入学式（10 学級・535 名）
昭和 62 年（1987 年）	理数コースを設置
昭和 63 年（1988 年）	西宮東高校ホール（なるお文化ホール）完成
平成 15 年（2003 年）	理数コースを自然科学系コース（数理・科学コース）に改編
平成 22 年（2010 年）	総合人間コース（人文・社会科学コース）を設置